▼9年間、西小学校の児童の登校を見守る“みちじいちゃん”こと道原 定さん。日々の声掛けの中で、子どもたちの体調や心の変化にも気を配っています

特集

防犯のまちづくり

～犯罪ゼロの三原市をめざして～

犯罪のない安全なまちは、私たちみんなの願いです。市内で発生する犯罪の件数は、市民の皆さんや各団体、行政などが一体となって防犯対策を進めた結果、最も多かった平成14年の半分以下にまで減少しました。しかし、新たな種類の犯罪が出現し、高齢者を狙う詐欺の手口が巧妙になるなど、気を抜けない状況が続いています。誰もが安心安全を実感できる三原市を実現する取り組みは、今日も続いています。

犯罪 三原市で発生する犯罪の特徴

平成25年の市内の刑法犯認知件数(警察が発生を認知した刑法犯の数)は730件でした。

その中でも、私たちに身近な犯罪を乗り物盗、街頭犯罪、侵入盗の3つに分類すると、乗り物盗が157件と最も多く、次いで街頭犯罪が149件、侵入盗が63件でした。

乗り物盗の中では、自転車盗が最も多く全体の約9割を占めています。また、特徴的なのは、オートバイ盗が前年から12件も増えたことです。住宅やアパートの駐輪場からミニバイクが盗まれる被害が目立ちます。乗り物盗の多くは三原地域の中心部、駅や商業施設の駐輪場で発生しています。

街頭犯罪で多いのは器物損壊で104件でした。車の中の貴重品などを盗む車上ねらいも36件発生しています。

侵入盗の中では、住宅や事業所などに侵入して窃盗する侵入窃盗が49件と8割を占めています。市の侵入窃盗は、市街地より中山間部で多く発生しているのが特徴です。特に、本郷・久井地域で多く発生しています。

■三原市の犯罪発生状況

犯罪の種類			発生認知件数 平成24年	発生認知件数 平成25年
身近な犯罪	乗り物盗	自動車盗	4	3
		オートバイ盗	5	17
		自転車盗	149	137
		小　計	**158**	**157**
	街頭犯罪	路上強盗	0	1
		ひったくり	3	2
		恐喝	1	3
		車上ねらい	43	36
		自動販売機ねらい	9	3
		器物損壊	91	104
		小　計	**147**	**149**
	侵入盗	侵入強盗	2	1
		侵入窃盗	66	49
		住居侵入	16	13
		小　計	**84**	**63**
その他の犯罪			405	361
刑法犯総数			**794**	**730**

犯罪 数はピーク時の半分以下

年間700件以上発生している犯罪ですが、最も多かった平成14年は年間1,681件も発生していました。

平成14年は県全体でも刑法犯認知件数が6万件に迫り、非常に治安の悪い状況でした。そこで県は同年、「減らそう犯罪」県民総ぐるみ運動を提唱し、市でもこれと連動して犯罪を減らす取り組みが本格化しました。

市民、町内会などの住民組織、事業者や関係団体などと行政が協働・連携し、防犯ボランティアや青色防犯パトロール活動が進められ、地域での自主的な防犯活動も活発に行われるようになりました。

さまざまな取り組みの結果、現在、市内で発生する犯罪はピーク時の半分以下にまで減少し、治安は改善する傾向にあるといえます。

犯罪 ゼロをめざして

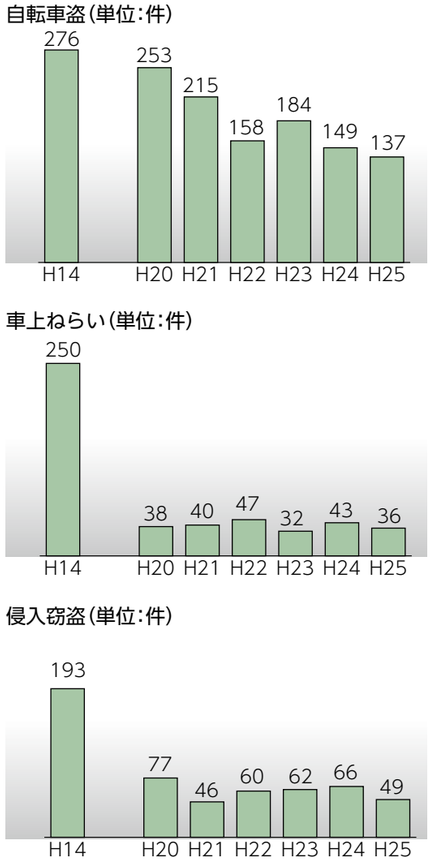
その一方で、市内でも新しい種類の犯罪の発生が問題になってきています。

最近は、振り込め詐欺など高齢者を狙う悪質な特殊詐欺や、インターネットの利用拡大やスマートフォンの普及に伴い、子どもが犯罪に巻き込まれることが増えています。私たちの身近に潜んでいる犯罪は多様化し、手口も巧妙になっています。

これまで市全体で一致団結し、順調に減らしてきた犯罪ですが、油断すれば増加に転じてしまう恐れもあります。

本当に安心して暮らすことができる犯罪ゼロの三原市をめざして―。息の長い、そしてさらに一歩踏み込んだ取り組みが求められています。

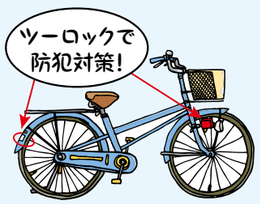
■身近な犯罪の発生件数の推移



防犯の心得❶ 決め手はツーロック

市内で最も発生件数の多い自転車盗難は、私たちが最も被害に遭いやすい犯罪です。広島県警の調べによれば、盗難される自転車の6割は鍵がかかっていない状態だといいます。たとえ鍵がかかっていても、壊されやすい鍵だと簡単に盗難されてしまうそうです。

自転車を盗難から守るには、丈夫な鍵を2個かける「ツーロック」が効果的です。スーパーでの買い物といった短時間の駐輪でも、しっかり施錠する習慣を身につけましょう。



▼三原警察署では寸劇で詐欺の手口をわかりやすく伝えています

人ごとではない特殊詐欺 三原市でも被害が発生しています

身近に迫る危険

昨年12月、市内に住む70代の女性が城町の中国労働金庫三原支店を訪れました。窓口で多額の定期預金を解約し、慌てて持ち帰ろうとする女性の行動が気になった職員の前原勇輝さんは、女性に声を掛けました。

その後、職員たちに説得され、女性は自分が詐欺に遭っていることに気づきました。「本当に信じ込んでいたので、被害を防げて良かった」。前原さんはこう振り返ります。女性が巻き込まれていたのは、証券取引をかたった特殊詐欺でした。

「最近増えている金融商品などの取り引きを装った詐欺」。三原警察署では事件をこう見ています。「必ず儲かる」「後で高値で買い取る」「名前だけ貸してほしい」などと言い、電話で嘘の儲け話を持ちかけてくるのが犯人の手口だといいます。

そして名前を貸すことを承諾した被害者に現金を要求し、被害者がそれを拒むと「名義貸しは違反だ」などと言い、犯罪行為に手を貸してしまったと思い込ませます。心理的に追い詰められた被害者は、周りの人や警察に相談することもできず、犯人の言うとおりにしてしまうのです。

今回の一件は、職員の皆さんの機転を利かせた行動で未然に防ぐことができましたが、市内でもなりすまし詐欺や架空請求、保険料や税金が返還されると嘘をつく還付金詐欺など、特殊詐欺の被害が発生しています。

平成23年に2件だった市内の特殊詐欺の被害件数は、24年に5件、25年には6件に増加しています。被害額も24年に1,100万円を超え、25年も1,000万円近くに達しています。

■市内で発生した特殊詐欺被害の推移

種類	平成21年		平成22年		平成23年		平成24年		平成25年	
	件数	被害額(円)	件数	被害額(円)	件数	被害額(円)	件数	被害額(円)	件数	被害額(円)
なりすまし	0	0	0	0	2	2,000,000	2	3,480,000	0	0
架空請求	1	28,000	1	657,050	0	0	1	4,000,000	4	5,170,000
融資保証金	2	370,000	0	0	0	0	1	2,830,000	0	0
還付金など	0	0	0	0	0	0	1	990,000	2	4,492,000
合計	**3**	**398,000**	**1**	**657,050**	**2**	**2,000,000**	**5**	**11,300,000**	**6**	**9,662,000**

広がる被害防止の取り組み

増える被害に歯止めをかけようと、市内でもさまざまな取り組みが広がっています。

三原警察署は昨年7月、詐欺の手口を寸劇で紹介する取り組みを始めました。防犯を担当する生活安全課の課員で劇団を結成。手口に合わせて4種類の台本を作り、被害者役と犯人役を演じる寸劇を作りました。交番や駐在所の警察官も演じられるよう研修も実施しました。

市民からの要請があれば、公民館や集会所で開かれる防犯教室や敬老会で披露しています。内容を収録したDVDも作り、町内会などへ貸し出しています。生活安全課課長の高山茂己さんは、「実際の詐欺をイメージしやすいように作った。手口を知って防犯に役立ててほしい」と話します。

▲年金受取日の前日に実施される街頭キャンペーン

防犯組合連合会では偶数月の年金受取日の前日、特殊詐欺への注意を訴える街頭キャンペーンを実施しています。夕方の買い物の時間帯に合わせ、市内の大型商業施設に地域安全推進員、金融機関の職員、警察官が集まり、来店者に啓発パンフレットを配布しています。

本郷地域で活動を続けている井原嘉直さんは、「年金は高齢者の大切な生活の糧。詐欺被害で失わないよう注意してほしい」と呼び掛けます。

過信せず、常に注意を

行政や関係団体の啓発、金融機関による水際での食い止めもあり、市内の被害件数は近隣の他市より少ない状況ではありますが。しかし、詐欺の手口は日々、巧妙化し、悪質になっています。

三原警察署によると、特殊詐欺の手口は以前、オレオレ詐欺などのなりすまし詐欺や還付金詐欺が中心でしたが、最近は株取り引き名目の詐欺や警察を装った詐欺が増えているそうです。振り込みではなく、現金を直接受け取りに来たり、郵送や宅配便で送金を指示したりするケースも目立つといいます。

特殊詐欺は、「子どもが心配」「訴えられたらどうしよう」「もう少しお金があれば」という人の優しさや弱さにつけ込み、現金をだまし盗ります。「自分は絶対にだまされない」と過信せず、日頃から注意のアンテナを広げておくことが大切です。

インタビュー!

三原警察署生活安全課
課長
高山茂己さん

市内でも増えている特殊詐欺。被害に遭わないためにはどうすればいいのか、三原警察署生活安全課課長の高山茂己さんに聞きました。

―市内で発生している詐欺の特徴は

高齢者が標的になる場合がほとんどです。退職金や年金など貯蓄が多い、相談する相手が少ない、脅しやすい、といった理由からです。市内では高齢者に株取り引きを装って現金を要求する詐欺も増えています。

―被害に遭わないようにするには

ほとんどの人は「自分はだまされない」と思っています。しかし、詐欺の被害に遭った人はそう思っていた人ばかりです。まず「自分だけは大丈夫だ」という過信を捨てることが大切です。

―普段から気を付けることは

詐欺の種類や手口を知っておけば、もしものときに落ち着いて対応できます。例えば、現金を宅配などで送らせるのは、間違いなく詐欺です。啓発チラシや広報、新聞などを読んで、防犯への意識を高めてください。不審な点があれば、すぐ家族や警察に相談することです。普段から周りに相談できる環境をつくっておきましょう。

問三原警察署　☎0848・67・0110

防犯の心得❷ 留守番電話作戦

三原警察署によれば、詐欺犯からの電話のほとんどは、固定電話にかかってくるそうです。詐欺に遭わない自信があっても、不意をつかれると動揺するものです。

そこで、詐欺犯からの電話に対応せずに済むよう、在宅中も留守番電話に切り替えておきましょう。必要なら相手は用件を残しますし、犯人なら証拠となる音声記録は残したがらないので効果的です。

地域を見守る温かい目
皆さんが安全なまちをつくっています

自分たちの住む地域は自分たちで守る―。市内には、そんな強い思いで防犯に取り組んでいる人たちがいます。地域の温かい見守りの目は、子どもや高齢者が安心して暮らせるまちづくりに欠かせないものになっています。地域の防犯に力を入れている人や団体を紹介します。

防犯カメラで犯罪を抑止
三原ダイヤハイツ自治会

一歩進んだ防犯対策で注目されている地域があります。沼田東町の三原ダイヤハイツ自治会。住宅団地内の2カ所に防犯カメラを設置し、地域の安全確保に役立てています。

同自治会が防犯カメラを設置したのは2年前。団地内で現金などを盗まれる被害が相次いだのがきっかけでした。

約540世帯が暮らす団地に住む人の多くは、団塊の世代と呼ばれる60代後半から70代前半。これまでも当番制で夜間パトロールを続けてきましたが、住民の高齢化が進む団地で治安をどう維持するかが課題でした。

そこで、住民の理解を得た上で、犯罪の抑止につながり、住民の負担も軽減できる防犯カメラの導入を決定。警察への捜査協力を除いて閲覧を制限するなどの運用規定も定めました。

町内会や自治会が防犯カメラを設置するのは県内でも初の試みで、同自治会は高齢者の防犯対策を推進する地域モデル地区にも選定されました。

昨年には団地内に常設サロンも開設し、高齢者がお互いを見守り合う環境も整えました。「地域の人の温かい目と防犯カメラで安心安全な地域づくりを進めていきたい」と同自治会会長の井上晴夫さん。地域住民を犯罪から守る新たな取り組みに、注目が集まっています。

▲団地の入り口に設置された防犯カメラ。行方不明者の捜索に役立ったこともあります

地域全体で子どもを見守る
糸崎小・第一中学校パトロール隊

米田山のふもとに住宅団地が広がる糸崎地区。約2,000世帯が住み、その中にある幼稚園、小・中学校にはたくさんの子どもが通学しています。JR山陽本線が走り、国道2号、三原バイパスも通るなど、市内でも交通量が多い地域です。

こうした環境の中、家庭や学校、町内会などが一体となって地域の子どもを見守っているのが糸崎小・第一中学校パトロール隊です。平成18年の発足以来、防犯パトロールや安全マップの作成、糸崎駅周辺の清掃など、地域の安全環境を改善する活動に取り組んできました。

中でも力を入れているのが、登下校時の見守り活動。13の町内会と自治会が協力し、子どもの通学に目を配っています。毎日、見守りに立つ林 康明さんは、「子どもを犯罪から守るには、普段から顔を合わせることが大事。今では子どもから挨拶してくれる」と話します。

年に一度、市や警察と行う防犯パトロールには、第一中学校の生徒も参加。広報車からは生徒の声でこんなメッセージが流れます。

「平素は私たちが安全に通学できるよう、見守っていただき感謝しています。態度が悪いときやマナーが守られていないときは、遠慮なく注意してください」。

地域の人たちの温かい思いは、子どもの心に響いています。

▶下校時の見守り活動は通学路の雰囲気を明るくしています

問問い合わせ先

▲市の青色防犯パトロール車。平日、市内を巡回しています

青色防犯パトロール
地域を犯罪から守る青い灯

皆さんは青色の回転灯をつけた車が、まちを走っているのを見かけたことがありますか。近年、地域における防犯意識の高まりとともに、住民による自主防犯パトロールが活発になっています。その中でも、より効果の高い車での青色防犯パトロール活動を行う人や団体が増えています。

尾美文夫さんは、平成17年から新倉・沼田地区で青色防犯パトロール活動を行なっています。これに併せて、沼田小学校の児童が集団下校する際は、学校から自宅近くまでの見送りを続けています。

活動を始めた当時、新倉地区には現在のように住宅団地がなく、児童は人通りの少ない通学路を登下校していました。消防団員として45年間、地域を見守ってきた尾美さんは、「地元の子どもが心配」と活動を始めました。

平日は毎日、町内の巡回と児童の見送りを行なっています。きつい日もありますが、「子どもに元気をもらえるのが原動力」と今日もハンドルを握ります。

▲沼田小学校の児童の通学を見守る尾美文夫さん

青色防犯パトロールは、徒歩や自転車でのパトロールに比べて、目立つので強力な犯罪抑止効果があることや、少人数でも広範囲の巡回が可能なこと、住民に安心感を与え地域の防犯意識が向上することなどの利点があります。

特に犯罪抑止の点では、活動が行われている地域の多くで、それ以外の地域よりも犯罪発生率が減少しているという警察の検証結果もあります。

現在、市内でも多くの人や団体が各地域で青色防犯パトロール活動に取り組み、安心安全なまちづくりに力を尽くしてます。

防犯の心得❸
子どもを犯罪から守る合言葉
「いかのおすし」

市内でも、学校の登下校や塾や習い事への行き帰りに、「写真を撮ってあげる」「お菓子をあげる」などと子どもを誘い、連れて行こうとする事件が発生しています。

「うちの子に限って…」という油断は禁物です。この機会に親子の合言葉を「いかのおすし」にして、子どもを犯罪から守りましょう。

- 知らない人に付いていかない
- 知らない人の車にのらない
- 何かあったらおおきな声を出す
- 何かあったらすぐ逃げる
- 大人の人にしらせる

安心安全な三原市の実現に協力を

市では犯罪ゼロをめざし、さまざまな対策を行なっています。

駅周辺への防犯カメラや通学路への防犯灯の設置、青色防犯パトロール活動の実施のほか、防犯啓発活動や子どもの見守りに取り組む町内会やPTAなどの団体や人に、パトロール用のマグネットシートやたすきなどを貸し出しています。また、新1年生を対象に防犯ブザー購入費の半額を補助する制度もあります。

不審者情報や振り込め詐欺発生時のメール配信も行なっていますので、この機会に登録してください。今後も安心安全な三原市の実現に協力をお願します。

※メール配信システムを登録するには、「mihara@xpressmail.jp」へ空メールを送信するか、携帯電話で下の二次元コードを読み込み、画面に表示される手順に沿って操作してください。

問生活環境課 ☎0848・67・6179